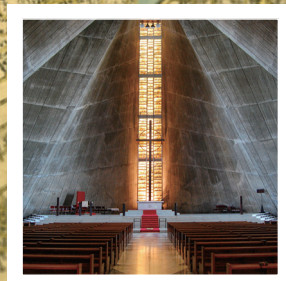
江戸キリシタン巡礼ガイド

ヨハネ原主水とペトロ岐部
ゆかりの地を訪ねる



カトリック東京大司教区

殉教者に学ぶ

ペトロ岐部と187殉教者の列福を迎えるに際して、東京教区司祭評議会では、殉教者の信仰に学ぶための助けとなる冊子を編集し、発行することといたしました。

本書は、21世紀前半の日本で信仰を生きる東京教区のカトリック信者が、400年前の1600年代前半に殉教した福者たちの足跡をたどりながら、殉教者から励ましと勇気をいただき、力強く信仰を証しするための手引きとなるように、との願いを込めて作成されました。

今回列福される殉教者のうち、東京教区内で殉教した方は、筆頭にあげられているペトロ岐部とヨハネ原主水のお二人です。ペトロ岐部からは司祭の使命を全うする不屈の勇気に、原主水からは逆境の中で神の慈しみを深く信じ、証ししたその信仰に学びたいと思います。

この冊子が現代の荒れ野を旅する多くの人々のよき導きとなることを切に願っております。

2008年11月24日　ペトロ岐部と187殉教者 列福の日に

東京大司教　ペトロ　岡田 武夫

目次

発刊によせて —— 殉教者に学ぶ

殉教 —— キリストの愛を証しすること　- 2 -
江戸のキリシタンと殉教　- 4 -

江戸の殉教者　ヨハネ原主水（はらもんど） — 弱さの中に強さをいただいた人 —　- 6 -
江戸キリシタン殉教録　- 9 -

江戸の殉教者　ペトロ岐部（きべ） — 不退転の人、「転び申さず候」 —　- 12 -
ペトロ岐部神父の手紙　- 15 -

江戸キリシタン　ヨハネ原主水とペトロ岐部 ゆかりの地を訪ねる　- 16 -

伝馬町牢屋敷跡　- 18 -
原主水が捕らえられた牢／ペトロ岐部の殉教地

札の辻／元和キリシタン遺跡　- 20 -
原主水　江戸の大殉教の地

江戸の殉教者顕彰碑　- 22 -
江戸の大殉教をしのぶ

浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑　- 24 -
原主水が潜伏した地　鳥越キリシタンをしのぶ

切支丹屋敷跡／切支丹坂　- 26 -
宣教師たちが尋問・幽閉された地

臼井城址　- 28 -
原主水の生誕地

ペトロ岐部と187殉教者の生き方にならう　- 29 -

江戸キリシタン巡礼モデルコース　- 30 -
ペトロ岐部と187人殉教者　列福にあたっての祈り　- 32 -

殉教
――キリストの愛を証しすること

江戸のキリシタン時代、ペトロ岐部と187殉教者をはじめとする無数の人々が、イエスのあとに従い、自分のいのちをかけて、神の愛が信じるに足ることを証しする生き方を選びました。激しい拷問にあってまで信仰を守りぬいた人々が、どのような生き方を貫いたのか、ふだんどのような信仰生活をおくっていたのかに焦点をあててみましょう。

†

殉教者は証しする人

「殉教」という言葉は、死ぬことをまず連想させますが、元になっているギリシャ語“μάρτυς（マルトゥス）”の意味は「証し」です。つまり、殉教者とは、「信仰の真理を表すために、死ぬことさえ惜しまないで証しした人たち」ということです。

神の愛がどのようなものかを、すべてをささげて証ししたのが、イエス・キリストでした。愛する者のためだけでなく、神を裏切り、人を裏切る者をも含むすべての人のために、神の愛を教えてくださったのです。主イエスがご自分の死と復活の出来事をとおして身をもって示したのは、苦しみと直面し、それを選びとることによって死と罪に打ち勝ち、神の愛を証しするということでした。

殉教者たちは、イエスが示した生き方にならって、約束されている永遠のいのちに希望をおいた人といえるでしょう。

殉教者にならう

わたしたちは殉教者のどのような優れたところにならい、学ぶことができるのでしょうか。カトリック教会が示している殉教の定義には、その特長がよく表れています。

①最高の愛の証しであること

殉教とは、自分の名誉心のために死ぬことでも、崇高な理念のために戦って死ぬことでもありません。神を愛し、人を愛し、そのためにいのちをささげることです。イエスが十字架にかかって示した愛を受け止めて、その前に自らの頭（こうべ）を垂れることです。

②キリストの生き方と死に方に一致していること

殉教者の生き方、死に方は、イエスの姿を思い起こさせます。非暴力であること、強制されてでもなく、いやいやでもなく、すすんで神と人々への愛のために十字架を選ぶ姿です。

③自分のいのちを実際にささげること

殉教者は、政治的意図ではなく、神と自分との関係である信仰を守るという理由のためにいのちをささげました。迫害する側の動機も、人々が信仰をもつことに対して迫害しています。

④真正な福音の証し

殉教者は、この世の価値観ではなく、神だけがわたしたちを救ってくださることを信じ、希望しました。この苦しみの中ですら、神は愛をもって恵みを与える自由な方であると信じて生きたのです。

⑤教会から認められ、教皇に承認されること

殉教者は、その地域で称えられ、人々の尊敬を集め、ならいたいと思われる存在です。危険なモデルでないか十分に調査されたうえで、確かに殉教者であるとカトリック教会の認証を受けます。

†

自分のいのちをささげることは、その人の人生の苦しみを神が受け入れ、聖なるものに変えてくれる変えてくれることを証しすることです。殉教者を通して人が克服できない苦難と孤独にあっても、神はそれらを乗り越えて恵みを与えられる方であることを学びましょう。

江戸のキリシタンと殉教

キリシタン時代、日本の教会では多くの信徒が殉教しました。このたび列福された188人は、そうした殉教者を代表しています。この江戸においても数多くの殉教者が輩出しました。江戸で最初にキリスト教の宣教が行われた時代の様子を振り返ってみましょう。

†

キリスト教の広がりと迫害のはじまり

1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、瞬く間にキリスト教は九州から関西地方まで伝わりました。しかし、1587年に豊臣秀吉がバテレン追放令を敷き、1597年にキリシタンと宣教師あわせて26人（のちの日本26聖人）が長崎で処刑されると、キリスト教の宣教活動は中止を余儀なくされました。そのため、このころはまだ江戸までキリスト教の教えは伝えられていませんでした。

1598年、徳川家康はポルトガル人でフランシスコ会のジェロニモ・デ・ジェズス神父に、江戸での宣教を条件付きで認めました。ジェロニモ・デ・ジェズス神父は、1599年、現在の八丁堀付近に「ロザリオの元后聖マリア聖堂」を建堂しましたが、1601年の江戸の大火により聖堂は焼け落ち、宣教師と信徒たちはその復興にあたって、聖堂、修道院、診療所を再建しました。

1612年、徳川家康の命令によりキリシタン禁教令が出され、江戸においてもキリシタンの迫害が始まりました。八丁堀の聖堂や施設も、江戸の町の拡張という口実ですべて取り壊されてしまったのです。これ以降、江戸の殉教者で殉教年月日が確認されるだけでも300人のキリシタンが殉教したことがわかっています。

江戸のキリシタンの殉教

江戸の殉教者の大部分は信徒であったと言われていますが、その殉教の場所は、刑場があった浅草の鳥越、札の辻、小伝馬町の牢獄、品川海岸、人の往来の激しい四ツ谷、奥州街道入口などだったそうです。

その一つ、伝馬町牢屋敷に1年6か月にわたって囚われたフランシスコ会のディエゴ・デ・サン・フランシスコ神父は、牢獄の様子を「豚小屋のような狭い部屋にたくさんの人が押し込められ、臭気と飢えと渇きのため40日のうちに死者が出た」と記しています。中央区日本橋小伝馬町の十思（じっし）公園入口に、この伝馬町牢屋敷跡が残されています。

多くの殉教があった中でも、1623年の「元和（げんな）の大殉教」では50人が殉教しています。この年、第3代将軍に徳川家光が就任し、キリシタン狩りが盛んになりました。イエズス会のジロラモ・デ・アンジェリス神父、フランシスコ会のフランシスコ・ガルベス神父、ヨハネ原主水（はらもんど）らが、伝馬町牢屋敷から日本橋、新橋、田町を通り、人目にさらされながら札の辻刑場へ引き回され、東海道品川宿の入り口で火刑に処されました。

現在、カトリック高輪教会を中心に江戸殉教祭が毎年行われており、高輪教会には江戸の殉教者顕彰碑をはじめ、江戸大殉教図、禁教の高札などが保存されています。

参考文献
白柳誠一『白柳大司教　東京教区百年を語る』女子パウロ会、1992
高木一雄『江戸キリシタンの殉教』聖母の騎士社、1989
山田野理夫『東京きりしたん巡礼』東京新聞出版局、1982

Edo Martyrs Pilgrimage Guide

江戸の殉教者　ヨハネ原主水

弱さの中に強さをいただいた人

光は影を生む。色は光によって現れ、影はそれを消す。影によって人は自らの形を知り、そして影の中で人は光を求める。光と影、人はそれを交互に生きる。駿府城三の丸跡に立つヨハネ原主水の像は、自らが生きた光と影の神秘を静かに伝えてくれる。

原主水は下総国（現在の千葉県）臼井城主の子に生まれた。父は北条氏に従って小田原の合戦に参戦。秀吉に敗れ、江戸にて切腹。父を亡くした幼少の主水は、家康の小姓に召され、主君に伴い伏見に移った。そこには朝鮮から連れ去られた おたあジュリアも奥女中としていた。1600年、主水は教会の門をくぐり、大坂でモレホン神父から受洗、ヨハネと名乗った。1603年、「背高く、勇猛な武士」は20歳で走衆（将軍警護役）の頭になり、30人を預かって1500石を賜るに至った。やがて、家康に従い駿府城に移った。将軍家康警護の先頭に立つ主水の得意満面の姿はまぶしかった。この世の光に喜々として仕える若き主水がそこにいた。名声と利益はいつの世も人を駆り立てる。光に群がる虫のように、駿府には諸国からあまたの人が手土産を携え日参した。主水は光の中に影を見はじめた。1612年、駿府の教会名義人岡本大八による贈収賄事件は、教会の歴史に暗い影を落とした。家康は教会に不信を抱いたとき、弾圧者となり家中のキリシタン武士14人を改易して追放した。そのとき主水は行方をくらまし、逃亡者になった。そして自らの影を知った。

駿府城（静岡県静岡市）

「この男、密通の沙汰あり」「御殿に勤める女の一人をたぶらかした」。主水に関して幕府にも教会にも、この記録は残った。恋仲の野尻彦太郎の妹は斬首、彦太郎は逼塞。逃亡中かくまった者たちも斬首。2年後、捕らえられた主水は安倍川の河原で両手の指を切断、額に焼印を押され、両腿の筋を切り落とされた。走衆の組頭は手足を失い、ハンセン病者の小屋に運び込まれた。生き残ったこと自体、主水には深い罪だった。もう光はなかった。愛する友、愛する女性、そしてすべてを失ったとき、闇の中に初めてキリストの十字架が見えた。いざりながら生きる主水は、いつしか江戸浅草のハンセン病者たちに身をかがめて仕えていた。「自らの苦難と嘲笑と人々への怖れ」を引きずって生きる主水の姿は、キリストの十字架の愚かさと重なって見えた。そのころ、デ・アンジェリス神父は、レオ竹屋権七の家に、東北から帰ったガルベス神父は浅草のハンセン病者の中に隠れていた。

カトリック静岡教会の原主水像（小坂圭二作）

1623年、主水のかつての部下は銀300枚の賞金目当てに裏切り、主人とその仲間の居場所を密告した。こうして、デ・アンジェリス神父、ガルベス神父、修道士遠甫、原主水ら50人が捕らえられた。ちょうどそのとき、江戸には将軍家光の就任を祝うために全国の諸大名が集まっていた。家光は自らの威信と断固たるキリシタン禁令を誇示するため、捕らわれ人を諸大名の前で火刑に処すよう指示した。

1623年12月4日、品川の宿、札の辻において、宣教師と信徒総勢50人が、おびただしい群衆の前で火に焼かれ殉教した。その身をはい上る火炎を、腕を廻して抱き寄せようとする主水の姿に群衆はどよめいた。自らの過ちを抱き寄せて焼き尽くそうとしたのか、

駿府キリシタン殉教之碑
（静岡市・安倍川原）
主水が受刑した地

それとも、闇に見た真の光をかざそうとしたのか定かではない。焼き尽くされた主水に、もはや影はなかった。そして、影を引きずって生きる人々にとって、ヨハネ原主水は今小さな光となった。

出典：日本カトリック司教協議会 列聖列福特別委員会編
『ペトロ岐部と一八七殉教者』 カトリック中央協議会、2007 より

札の辻付近にある元和キリシタン遺跡の碑（港区）

ヨハネ原主水　年譜

1583 (天正11)年
下総国（千葉）臼井城主、原胤義の子として生まれる。幼名は吉丸。

1590 (天正18)年
父胤義、江戸で切腹。
10歳のころ、徳川家康近侍の小姓となる。

1600 (慶長5)年
このころイエズス会のモレホン神父から大坂で洗礼を受ける。

1603 (慶長8)年
家康の御徒歩として30人組の組頭になる。
20歳のときフランシスコ会の第三会「帯の組」に入る。

1612 (慶長17)年
幕府が直轄領に禁教令を出し、主水は改易のうえ追放され、行方をくらます。

1614 (慶長19)年
逮捕され、駿府で手足の腱を切断、頭に十字の焼印を押される。その後、浅草のフランシスコ会の病院に身を寄せる。

1623 (元和9)年
密告され、イエズス会のデ・アンジェリス神父らとともに江戸市中を引き回しのうえ、札の辻で火刑に処せられ、殉教。

江戸キリシタン殉教録

『一六二三年度イエズス会年報』より

12月4日の早朝、ついに刑吏たちが将軍の命令を遂行するためにやって来た。彼らは牢屋の中へ入り、まずジロラモ・デ・アンジェリス神父のところへ行って、その足枷（あしかせ）を外した。それから神父の首に太い縄をかけ、それで両手を背中で縛った。フランシスコ・ガルベス神父とその他のキリシタンたちも、これに劣らずむごい扱いを受けた。刑吏たちは彼らを皆縛り、刑場へ連れて行くために、その人数を数えた。

デ・アンジェリス神父は、さながら一隊を指揮する者のように馬上高く行列の先頭にたち、肩から大きな文字で神父の名前を書いてある札を掛けていた。彼に続く者はシモン遠甫（えんぽ）、レオ竹屋権七、その他全部で16人、皆歩いて行った。その次に同じく馬に乗せられたガルベス神父が同じように名前を書いた札を掛けて行くと、前と同じ人数のキリシタンがその後を歩いて行った。行列の最後尾を行くのは馬に乗った原主水で、前の人たちのよりは多少小さいが、同じように名前を書いた札を掛けて行くと、残りのキリシタンがその後について行った。誰も彼らに近づけないように、先頭も後尾も両側も武装した刑吏たちに取り囲まれていた。こうして彼らは、我らの聖い信仰があれほどまでに悩まされた江戸の往来をさながら凱旋行列のように、旗を揚げ風になびかせながら進んで行った。

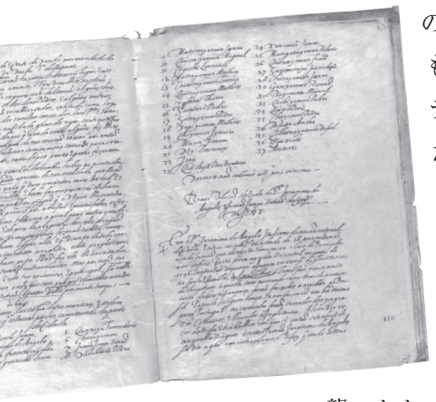
市の外には、上（かみ）へ行く街道に沿って、もう50本の柱が刑場に立っていた。その中で江戸の市に一番近く立っていた3本の柱は他の柱から少し離れていたが皆薪の束で囲まれていた。薪は、それが燃え上がった時にも、火が少なくとも柱から1、2尺離れた所で燃えているくらいに、柱から離れた所に置いてあった。方々から見物に集まった群衆はおびただしい数であった。

一同は刑場に着くと、馬に乗せられていて下りることを許されなかった3人を除いて、皆彼らの柱に縛られた。それから刑吏ども

がたいまつをその下へ投げ込んで薪に火がつくと、炎はいたる所で炎々と天に燃え上がり始めたが、幸福な人々はイエス、マリアの聖名を声高らかに唱え始めた。うめき声をあげた者、苦しみにもがく者、あるいは少なくとも顔にほんのわずかでも痛ましい色を表した者は一人もなかった。神父たちはこれをすべて馬上から眺めていたが、彼らの精神はくじけず、勇気を衰えさせることはなかった。神父の気がくじけることは実は裁判者たちが望んでいたことで、そのために処刑も延ばして、神父たちがこの残虐な火刑に愕然としてその心を変えるようにと計ったのであった。

もう火が消えて、それとともに皆の生命も絶えた時、他の3人は馬から下ろされ、それぞれ柱に縛られた。江戸の市に一番近い第1の柱には原主水、真中の柱にはデ・アンジェリス神父、最後の柱はガルベス神父であった。火がつけられるや否や、キリストの勇敢な闘士たちは互いに挨拶を交わし、励ましあった。デ・アンジェリス神父は、彼らを待っている天国の栄光の永遠なのに比べれば、この苦しみはいかに短いものであるかを原主水に思い起こさせた。

江戸の大殉教について記した
『1623年度イエズス会年報』の一部
（ローマ・イエズス会文書館所蔵）



突然火がぱっと燃え立って彼らを包み始めた時、キリストの僕（しもべ）たちが無類の雄々しさをもって火炎の最初の襲撃をものともせずに堪えているのが、炎の間から見えた。最初デ・アンジェリス神父が江戸の市の方を向いて、この市のために短い祈りを捧げているのが見えたが、やがて神父は風にあおられて火の力がますます猛烈に神父に襲いかかっていく方を向き、ひとつにはそれを恐れないことを示し、またひとつには、そこに大勢集まっている民衆に最後の辞を述べようとした。

ヨハネ（原主水）は火炎が特に猛威をたくましく彼に襲いかかった時、特別に大切な物を抱きかかえるように炎のまわりに腕を回したのは、ひときわ目をひき、大きな勇気を示すしるしであった。彼は終始身動きもしないで立っていたが、遂に柱と共に前方に倒れ、手足を伸ばして大地に横たわったままであった。しかし生き残ったガルベス神父は、息絶えるまで責苦にかけられるような苦しみの真最中でもおののき退くことはなかった。柱に寄りかかって、死後も真直ぐに立っていた。恥ずべき悲劇はこうして終わった。

人々がどんな気持ちを抱いてこの血なまぐさい光景から立ち去って行ったかは書き表しがたい。しかし、殉教者たちのあの勇敢さと高潔な堅固さとはいくら褒めても褒めたりないというひとつの点では、万人の声も心も一致していた。

多かれ少なかれ火炎に焼き尽くされた死骸は広々とした野辺に置いたまま、その後3日の間兵卒たちが見張りをしていた。しかしこの見張りが解かれるや否や、キリシタンたちはたちまち神父2人の遺骸を運び去った。

キリシタンたちにかくも栄光の光を輝かせた日は1623年12月4日（元和9年10月13日）であった。

出典：フーベルト・チースリク「江戸の大殉教」（『キリシタン研究』4　洋々社、1957）より抜粋
（用字・人名等の表記は通行のものに改めた）

江戸の大殉教の殉教者

1623年12月4日に殉教した50人のうち名前が確認できる人物

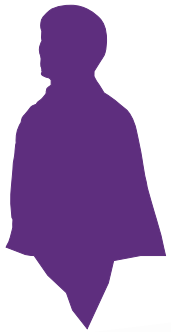
1	ヨハネ原主水	14	マチアス喜左衛門	27	指物屋甚七郎
2	ジロラモ・デ・アンジェリス神父（イエズス会）	15	トマス与作	28	ヨハネ長左衛門
3	フランシスコ・ガルベス神父（フランシスコ会）	16	ペトロ三太郎	29	ロマン権右衛門
4	レオ竹屋権七（デ・アンジェリス神父の宿主）	17	ペトロ佐左衛門	30	マヌエル武右衛門
5	カシヤ半三郎	18	マチアス関右衛門	31	ペトロ喜右衛門
6	ヨハネ長左衛門（フランシスコ会のカテキスタ）	19	イグナチオ長右衛門	32	久三郎
7	シモン遠甫（イエズス会）	20	シモン夢庵	33	ペトロ長右衛門
8	ペトロ庄三郎	21	ロレンソ土井	34	アンデレ理助
9	ヨハネ又左衛門	22	イサイ	35	ラファエル吉左衛門
10	ミカエル久左衛門	23	ボナベントゥラ久太夫	36	久七
11	ロレンソ小吉	24	ヨハネ新九郎	37	アントニオ
12	マチアス弥左衛門	25	ヒラリオ孫左衛門（ガルベス神父の宿主）		
13	ロレンソ角左衛門	26	フランシスコ喜左衛門		

出典：『1623年度イエズス会年報』より　人名表記は通行のものに改めた

「江戸大殉教図」江副隆愛 画（部分）

江戸の殉教者　ペトロ岐部

不退転の人、「転び申さず候」



Pietro Kasui Japonensis

信仰は点と点を結ぶ作業かもしれない。その結ばれた線の始めと終わりに、絶え間なく働きかけておられるおかたが見えてくる。ザビエルを先駆者として遣わされた神は、ペトロ岐部によって日本の教会の霊性と使命を確認された。

1587年、豊後（現在の大分県）も日本の教会も動乱の中にあった。その年、ロマノ岐部、マリア波多を父母にペトロは豊後の国、浦辺に生まれた。信心深い両親と豊かな自然にはぐくまれた少年時代、やがて人生を翻弄する嵐の中で、故郷の記憶はいやしと力になる。1600年、時代の奔流が徳川に向きを変えたとき、13歳のペトロ岐部は有馬のセミナリオに入った。以来、故郷に戻ることはなかった。セミナリオ卒業を控え、イエズス会入会を希望するもかなわず、自らしたためた誓願文をそっとふところに忍ばせ、時を待った。その後8年間、同宿として筑前（現在の福岡県）の甘木と秋月で働いた。1614年3月に殉教した秋月の世話役マチアス七郎兵衛の遺体を長崎に運んだとき、岐部は日本の教会がどこに向かっているかを肌で感じた。その年の暮れ、司祭職への志を固めた岐部は、追放先のマカオにいた。だが日本人学生に対する偏見

ジェズ教会
ローマにあるイエズス会のかつての総本部。岐部もここを訪れた。

エルサレム
岐部は日本人最初の聖地巡礼者でもある。

ペトロ岐部像（舟越保武作）
ペトロ・カスイ岐部神父記念公園（大分県国東市）にある。

や経済難を理由に、マカオの司祭養成機関は無情にも閉鎖。しおれて日本に戻る者、したたかにマニラに活路を求める者、そしてゴアに向かう者。ザビエルの宣教の根底にあった日本人への信頼が問われていた。そのとき、岐部はローマへ向かった。1617年、マカオを出奔し、インド、パキスタン、イラン、イラク、ヨルダンへ。死と隣り合わせのシルクロードは、岐部にとって唯一残された司祭への道だった。エルサレムにたどり着いたとき、岐部はイエスの十字架の道に傷だらけの自分の足を添えてみたことだろう。彼は深い慰めと新たな気力に満たされたに違いない。1620年5月ころ、ペトロ岐部はローマのイエズス会本部の扉をたたいた。日本の上長からの評価と、眼前に立つ不退転の若者との落差に、ローマの幹部は驚きを感じたであろう。同年11月15日司祭叙階、その5日後にイエズス会入会。33歳だった。1622年3月12日に行われたイグナチオとザビエルの列聖式にあずかった岐部は、あらためてザビエルの思いを感じた。もはや安穏とローマで過ごすときではなかった。岐部は帰路に着いた。リスボンからマカオ、アユタヤ、マニラに至る航海で3回難破。ついに1630年、ミカエル松田とともに「神からの恵みの風に信頼し、帆を張って」ルバング島から最後の航海に出た。折からの台風で小船はまたも難破したものの、「同胞の救霊のために前進したい」との激しい一念が、2人を薩摩の坊津にはい上がらせた。

16年ぶりに祖国の地を踏んだ岐部は長崎に直行した。しかし、そこは想像を絶する厳しい迫害と殉教の町と化していた。1633年には日本のイエズス会責任者フェレイラが棄教、長崎、京都をへて岐部は東北の水沢に活動の拠点を置いた。一方、島原の乱を契機に、幕府はその取り締まりを全国に

ペトロ岐部の軌跡

徹底させた。1638年3月、旧知の同宿長三郎が賞金目当ての訴人となり、岐部の宿主を告発した。そして、岐部も捕らえられた。江戸に護送され、将軍家光と重臣直々の詮議は、岐部にとって最高のあかしの場となった。皮肉にも、その調書を残した宗門奉行井上政重（まさしげ）の一文が、岐部の生涯をまとめ上げている。「キベヘイトロはコロび申さず候。ツルシ殺され候。同宿ども勧め候ゆえ、キベを殺し申し候由」。1639年7月帰天、享年52歳。日本人を愛し、その文化の中にキリストの教会を模索したザビエル、そして日本人としての誇りと独自の信仰の中で成長したペトロ岐部。イエスの福音のための不退転の霊性が、ザビエルとペトロ岐部と現代の教会を結ぶ。これは主がなさったことで、人の目には不思議に見える。

出典：日本カトリック司教協議会 列聖列福特別委員会編
『ペトロ岐部と一八七殉教者』 カトリック中央協議会、2007 より

ペトロ岐部　年譜

1587（天正15）年
父ロマノ岐部、母マリア波多の子として豊後国（大分県）浦辺に生まれる。

1600（慶長5）年
肥前国（長崎県）有馬にあるイエズス会のセミナリオに入る。

1606（慶長11）年
イエズス会の同宿（神父と同居し様々な手伝いをする者）となり、同会への入会を願い出る。

1614（慶長19）年
追放された宣教師と共にマカオへ渡る。

1617（元和3）年
ローマに行くため、マカオを発つ。

1620（元和6）年
インドよりペルシア・エルサレムを経てローマに到着。
11月15日 — ラテラノ教会の香部屋にある小聖堂において司祭叙階。同20日にイエズス会への入会を許可され、聖アンドレア修練院に入る。

1622（元和8）年
6月6日 — 3人の修練者と共にローマを発ちリスボンに向かう。

1623（元和9）年
3月24日 — リスボンを発ちインドに向かう。

1624（元和10）年
5月28日 — ゴアに到着。

1625（寛永2）年
9月1日〜11月15日　マニラを経由してマカオに到着。

1627（寛永4）年
2月 — マカオよりシャムに向かうが、マラッカ近海でオランダ船に襲われ避難する。
5月1日 — マラッカを発ち再びシャムに向かう。

1629（寛永6）年
7月2日 — アユタヤを発ちマニラに向かう。

1630（寛永7）年
6月 — ミカエル松田神父と共にルバング島を発ち日本へ渡る。

1638（寛永15）年
3月 — 奥州水沢（岩手県）で捕らえられ、江戸へ送られる。

1639（寛永16）年
7月 — 江戸の伝馬町牢屋敷において拷問を受け殉教。

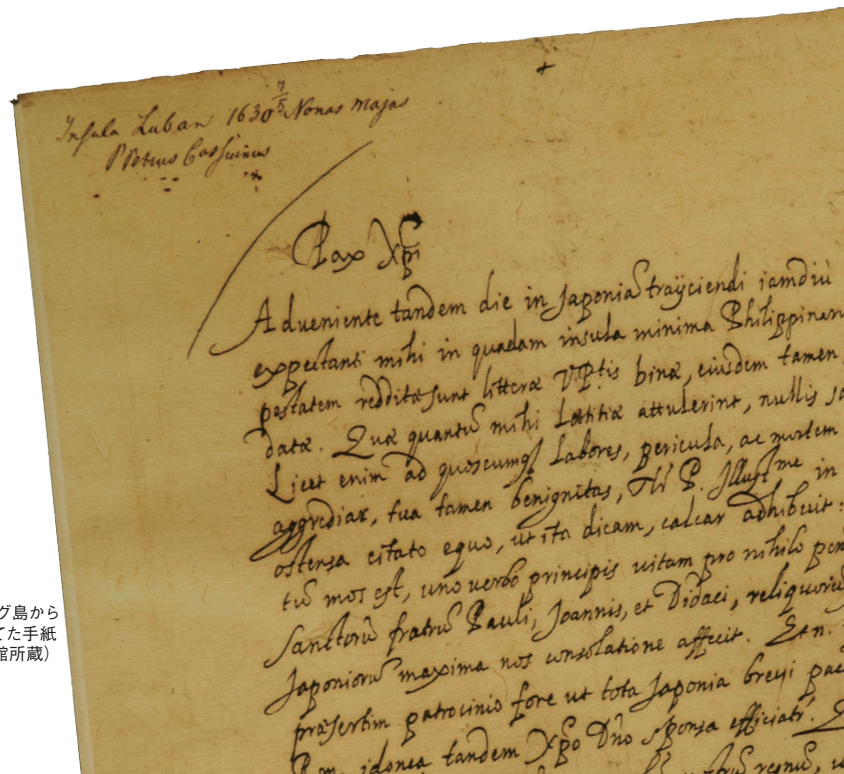
ペトロ岐部神父の手紙

一六三〇年 日本に向かう途中ルバング島から
ローマのヌーノ・マスカレニャス神父に宛てた手紙（抜粋）

私たちは何よりもまず、私たちの聖父イグナチオと使徒フランシスコ・ザビエルの助けを絶えず願っています。私たちがたとえ彼らの息子にふさわしくないとしても、このような事業をなしとげることを、神が私たちの罪のためにその御助けを拒まれることのありませんように。もし、神の恵みの風が吹き、それに信頼して私たちが帆を張り、私たちを無事に日本へ導いてくださるならば、私はもう一度、私たちの旅行について、また日本の教会の状態について詳しく神父様に報告するつもりでおります。祈りとミサ聖祭のうちに私たちのために神に祈ることをお忘れにならないよう、神父様にお願いします。また、フランシスコ・ヴァス神父様にも、私からよろしく伝えていただきたく存じます。

ルバング島にて、1630年5月7日
キリストにおける神父様の僕である　ペトロ・カスイ

出典：結城了悟『男四人、道一つ』 日本二十六聖人記念館、2007 より



ペトロ岐部神父がルバング島から
マスカレニャス神父に宛てた手紙
（ローマ・イエズス会文書館所蔵）

江戸キリシタン

ヨハネ原主水とペトロ岐部

ゆかりの地を訪ねる

「ゑ入 江戸大絵図」1684 年（東北大学附属図書館所蔵）
地図上に重ねている現在地名・地点は
およその位置を示しています

Edo Martyrs Pilgrimage Guide

伝馬町牢屋敷跡

原主水が捕らえられた牢／ペトロ岐部の殉教地

十思公園
伝馬町牢屋敷は十思公園と周辺の十思スクエア、大安楽寺、身延別院などを含む一帯で、3,640㎡ほどの広さがあったという。

伝馬町牢屋敷は、慶長年間から1875（明治8）年まで約270年間存続し、この間に全国からの入牢者は数十万人を数えたといわれる、江戸町奉行所支配下最大の牢だった。安政の大獄で吉田松陰もここで処刑されている。当時の牢は現代でいう未決囚を収監し、死刑囚を処罰していた。そこで拷問や穴吊るしの刑、ためし斬りが行われていたが、斬首は浅草の鳥越刑場で行われた。

1612（慶長17）年キリシタン禁教令が敷かれて以来、1500人のキリシタンが収容されたといわれている。キリシタンたちは拷問を受けて棄教したり、棄教しない場合は浅草の鳥越刑場で斬首された。

原主水が捕らえられた牢

原主水が最後に身を寄せていたのは、江戸のキリシタンの隠れ場であり活動拠点であった浅草であった。彼はハンセン病者のために働き、信徒たちの霊的なよりどころとなった。1623年、原主水の元家臣が賞金に目がくらみ、宣教師たちや主水らキリシタンの隠れ家を町奉行に密告した。こうして50人が捕縛され、原主水は伝馬町牢に入れられた。50人はここから札の辻まで引き回され、原主水とデ・アンジェリス神父、ガルベス神父は、馬に乗せられて殉教の地まで進んでいった。

ペトロ岐部の殉教地

ローマで司祭となったペトロ岐部は、1630年にルバング島を発ち、16年ぶりに日本に帰国した。迫害の厳しくなった長崎を去り、潜伏して信徒たちを訪ねては励ましつつ東北へ向かった。1639年、岩手県の水沢でついに捕らえられて江戸に護送され、伝馬町牢で穴吊るしにより殉教した。取り調べをした井上政重は「キベヘイトロはコロび申さず候。ツルシ殺され候」と記録している。

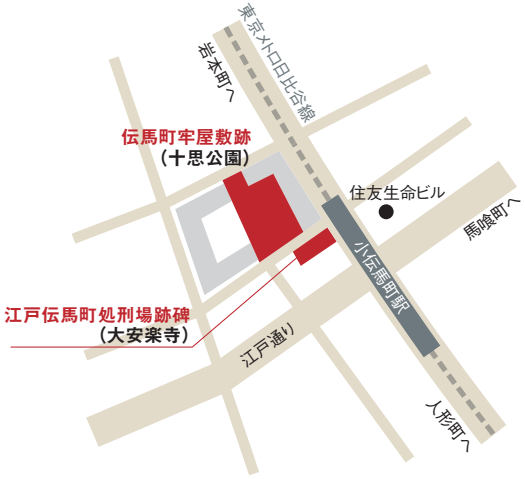
十思公園の北側入口

大安楽寺にある江戸伝馬町処刑場跡の碑

Access アクセス

中央区日本橋小伝馬町5-2

東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅より徒歩3分。中央区立十思公園内の掲示板に説明がある。



札の辻／元和キリシタン遺跡

原主水　江戸の大殉教の地

都旧跡 元和キリシタン遺跡の碑
札の辻交差点から品川駅方向、東海道入り口の小高い丘にある。

1623年12月4日（元和9年10月13日）、第3代将軍 徳川家光は江戸にいる諸大名にキリシタン禁制を徹底させるため、伝馬町牢にいた50人の首に縄をかけ、手を後ろ手に縛り、日本橋、新橋、田町と人目にさらしながら札の辻刑場まで引き回した。札の辻は東海道から江戸への正面入口で、高札場が設けられ、人通りの多いところであった。

イエズス会のジロラモ・デ・アンジェリス神父、フランシスコ会のフランシスコ・ガルベス神父、ヨハネ原主水らが火あぶりとなった（9ページ殉教録参照）。

この丘は、長く不浄の地とされてきたが、約150年後の1771年に智福寺が移ってきた。1960年、東京都教育委員会が「都旧跡 元和キリシタン遺跡 智福寺境内」の石碑を建てたが、智福寺はその後度重なる山崩れにより移転。現在、その石碑は住友不動産三田ツインビル西館の公開空地内で見ることができる。

札の辻の交差点
札の辻は東海道から江戸への正面入口であり、1616（元和2）年には芝口門が立てられた。
名の由来は、ここに高札場が設けられて、布告法令などが掲示されたことによる。
当時ここからは江戸湾が眺められたという。

札の辻交差点から品川駅方向右手に高いビル（住友不動産三田ツインビル西館）が見える。そのビル横の公開空地、奥の広い階段を上ったところに碑がある。

Access アクセス

港区三田 3-5-27　住友不動産三田ツインビル西館 公開空地内

JR 田町駅、都営浅草線・都営三田線三田駅より徒歩10分。
国道15号線（第一京浜）を品川方向に300mほど行くと「札の辻」交差点がある。
元和キリシタン遺跡の碑は、札の辻交差点から品川駅に向かって5分ほど進み、右手の高いビル（住友不動産三田ツインビル西館）横の公開空地、奥の広い階段を上ったところにある。

江戸の殉教者顕彰碑

江戸の大殉教をしのぶ

江戸の殉教者顕彰碑
かつてこの碑は札の辻にあったが、高輪教会敷地内に移設された。

裏面

カトリック高輪教会聖堂の前庭に、「江戸の殉教者顕彰碑」がある。この碑は1956年、殉教地である札の辻近くの智福寺境内に建立され、その後高輪教会に移設されたものである。

碑文には次のように記されている。「基督降世紀元1623年12月4日　元和9年徳川3代将軍家光専制治下の江戸に於て吉利支丹宗門イエズス會士エロニモ・デ・アンゼリス神父　シモン遠甫修士　フランシスコ會士フランシスコ・ガルヴェス神父　原主水等50名の男子は人類の救いのために人と生り給うた神なるキリストに對する揺ぎなき信仰と熱愛とを証し火刑の苦しみに耐え此の地に於て生命を捧げた　茲に在東京男子カトリック教徒は此の事績を想起し此の感銘を石に刻み彼等の雄々しい霊魂に對して絶えざる崇敬の念を表掲する」

カトリック高輪教会は江戸の大殉教地に近いことから、殉教者の元后聖マリアに捧げられた教会である。毎年11月、王であるキリストの祭日に、江戸の殉教者の記念ミサが行われている。教会地下納骨堂の前に江戸大殉教図の油絵が展示されており、地下の資料室では踏絵や禁教の高札などを見ることができる。

カトリック高輪教会

教会の塔

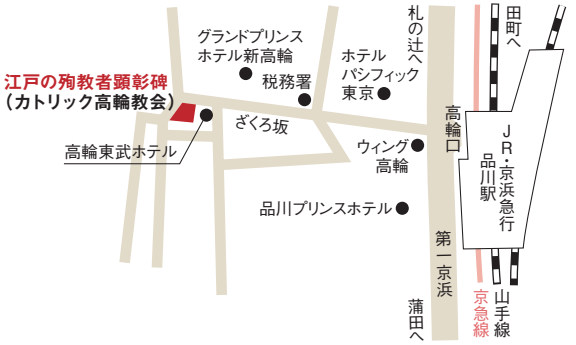
『江戸大殉教図』江副隆愛 画（カトリック高輪教会所蔵）

Access アクセス

港区高輪4-7-1
カトリック高輪教会

JR・京浜急行品川駅　高輪口より徒歩10分。品川駅前ロータリーの交差点から、ざくろ坂を10分ほど上ると左側に高輪教会の塔が見える。

※グループで巡礼する場合は事前に高輪教会へご連絡ください。
カトリック高輪教会
TEL 03-3441-5556



浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑

原主水が潜伏した地 鳥越キリシタンをしのぶ

浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑
カトリック浅草教会の裏手（北側）に殉教記念碑がある。
浅草・鳥越の殉教者を顕彰し、2002 年建立。

石碑の奥に木碑もある。

江戸で最初の聖堂は、家康の許可を得て八丁堀付近に1599年に建てられたものであったが、幕府の支配体制が確立するにつれて、キリシタンへの態度は厳しくなっていった。岡本大八が大名有馬晴信を欺いた贈収賄事件が、キリシタン武士どうしによる事件であったことも影響し、翌1612年、幕府は直轄領に禁教令を敷き、八丁堀の聖堂も取り壊した。

そこでルイス・ソテロ神父たちは、ハンセン病のキリシタンたちが住んでいた浅草の地に聖堂とハンセン病院を建て、ここが江戸のキリシタンの隠れ場となり、活動拠点となった（当時の聖堂や病院の場所は明らかでない）。

しかし1613年8月、キリシタンたちは一斉に捕らえられ、小伝馬町や浅草の牢に投獄された。名簿に記されたキリシタンは3700人、うち1500人が特別な監視下に置かれた。指導的立場にあった信徒たちや、一度は棄教したものの信仰に立ち帰った人たち30人近くが、浅草の鳥越刑場で次々と斬首され処刑された。

鳥越刑場は日本橋から浅草を折れて北千住を通り、東北地方に向かう奥州・千住街道の入り口にあった。鳥越川の小高い丘の近くにあったとされるが、場所は定かでない。

原主水も最後は浅草のハンセン病者の病院に身を寄せ、不自由な体であったが信者たちの霊的なよりどころとなった。1623年、キリシタンの隠れ家のことが密告されたことにより、原主水らキリシタン50人が捕縛され、札の辻まで引き回されて処刑された。

浅草はキリシタンの宣教と奉仕の場であり、神への愛のために尊いいのちが捧げられた地である。

カトリック浅草教会では、毎年8月24日に、1613年の鳥越川ほとりで起こった殉教を記念している。

カトリック浅草教会
キリシタン時代の聖堂や病院の場所は明らかでない。

Access アクセス

台東区浅草橋5-20-5
カトリック浅草教会

JR 総武線・都営浅草線 浅草橋駅より徒歩10分。JR 浅草橋駅の西口交差点を北上し、玉川国際学院のある交差点を左折、約150m先の右角にカトリック浅草教会がある。教会に隣接するCS タワービルが目印。

※グループで巡礼する場合は、結婚式や葬儀のために自由に入れないことがありますので、事前に浅草教会へご連絡ください。

カトリック浅草教会
TEL 03-3851-4009

切支丹屋敷跡／切支丹坂

宣教師たちが尋問・幽閉された地

都旧跡 切支丹屋敷跡の碑
現在は閑静な住宅街の中。当時このあたりは昼なお暗く、深い山のようであったという。
現在の文京区小日向1-14あたりに6,000坪を超える切支丹屋敷があった。

キリシタンに対し厳しい態度をとり続けた江戸幕府は、1640（寛永17）年、初代宗門改役（切支丹奉行）に大目付・井上筑後守政重を任命した。井上筑後守は1639年に殉教したペトロ岐部神父を取り調べた人物でもある。

彼は小日向にある自らの下屋敷内に牢をつくり、特に宣教師をここに幽閉して、殉教させるのではなく、取り調べ、拷問し、背教者として転ばせる方策をとった。人々はこの屋敷を「切支丹屋敷」と呼んだ。

幽閉されたフェレイラ神父（棄教して沢野忠庵と名乗る）、ジュゼッペ・キアラ神父（岡本三右衛門）と井上筑後守のやりとりをテーマとして書かれたのが遠藤周作の小説『沈黙』である。

再布教のため1708年に来日したジョヴァンニ・バッティスタ・シドッティ神父は、ただちに捕らえられて翌年ここに収容され、新井白石から取り調べを受けた。その対話の内容が新井白石の『西洋紀聞』であり、シドッティ神父の取り調べから死まで、世界の政治・地理・文化、キリスト教の教えなどが記されている。シドッティ神父は7年間ここで過ごし、彼の世話をしていた長助・はる夫婦に洗礼を授けた。夫婦がキリシタンになったことを自白したため、シドッティ神父は厳しく監視され、獄死した。

現在は「切支丹屋敷跡碑」が残るのみで、近くに「切支丹坂」と呼ばれる坂がある。

切支丹屋敷跡碑のある通り

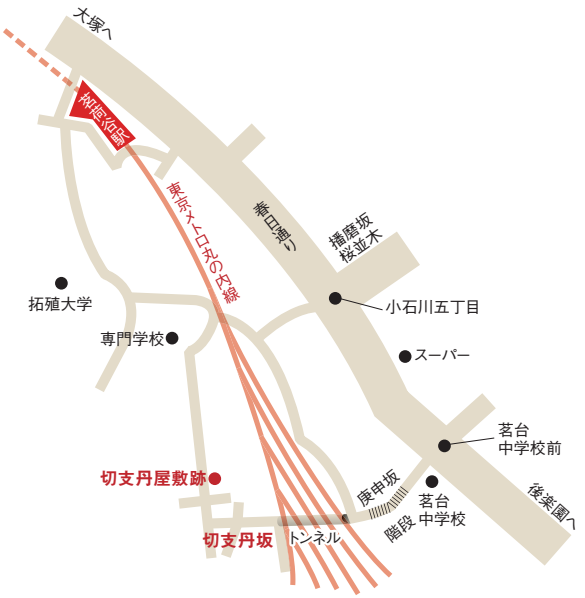
切支丹坂
夏目漱石や志賀直哉などの文筆家がこの坂について作品の中で触れている。

シドッティ神父が日本に携えてきた聖画「親指の聖母」(複製)
シドッティ神父が日本に携えてきた「親指の聖母（悲しみの聖母）」の聖画は、1948年に東京国立博物館で発見されたとき、「江戸のサンタマリア」と呼ばれた。当時建設中だったカトリック碑文谷教会（目黒区）はこの聖母に捧げられた。現在、東京国立博物館に収蔵され、碑文谷教会で複製画を見ることができる。

Access アクセス

文京区小日向1-24-8
エイゾービル前

東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅より徒歩10分。
春日通りを後楽園方面に進み、茗台中学校前交差点を右折すると庚申坂の階段。下って地下鉄丸の内線の高架下をくぐると切支丹坂。100mほど登りきって右折すると切支丹屋敷跡碑がある。



臼井城址

原主水の生誕地

臼井城址公園
原主水の生誕地。城郭の位置から印旛沼が一望できる。

「関東にて、下の上に優るたとえに、千葉は千騎、原は万騎の大将、と里俗の常談なり」という風刺が『古戦録』にある。本家の千葉氏をしのぐかつての原氏の勢力を察することができる。

ヨハネ原主水胤信は、1587年、下総国（千葉県）の臼井城主、原胤義の子として生まれ、幼名は吉丸といった。1590年に豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻めたとき、父胤義は北条氏側について敗れ、江戸で切腹。領地も失い廃城となった。遺児となった吉丸は徳川家康の小姓として召され、この地を離れて伏見に移った。

Access アクセス

千葉県佐倉市臼井
臼井城址公園

京成臼井駅より徒歩20分。
タクシーの利用をおすすめします。

ペトロ岐部と一八七殉教者の生き方にならう

キリシタン時代、教会は日本各地に広がり、全国で5千人から2万人ともいわれる殉教者が輩出した。ペトロ岐部と187殉教者はこうした日本の殉教者の代表である。188人の内訳は司祭4人、修道者1人、183人は信徒で、15歳以下の子どもも30人含まれている。

注目されるのは、厳しい迫害の中で子どもに洗礼を授け、信仰による絆で結ばれ支えあった家族である。生月の西一家、京都の橋本一家、加賀山・小笠原一族、島原の内堀一家などの証しは、家族の絆が危うくなっている現代に力強いメッセージを与えている。

立場の多様さも特徴的で、家康に仕えた原主水のような武士もいれば、ローマまで行きラテン語・ポルトガル語を自在に操ったペトロ岐部のような教養人もおり、庶民、女性、障がいのある人、幼児など、立場や年齢を越えてそれぞれの信仰を生きている。

キリストの愛にならい、暴力ではなく、いのちがけで敵を愛しゆるす心を人びとに示した殉教者に近づくよう学び、力づけられるよう祈ることが必要であろう。

江戸キリシタン巡礼モデルコース

～殉教者たちが歩いた道をたどる～

浅草に潜伏して捕らえられた原主水、デ・アンジェリス神父、ガルベス神父たち50人のキリシタンは、見せしめのために伝馬町牢屋敷から札の辻まで引き回された。
通った道は、現在の中央通り・第一京浜。経済・商業・文化の中心地である日本橋、京橋、銀座、新橋、浜松町を通って、刑場である札の辻まで大勢の見物人の中を引き回され、火刑により殉教した。
信仰を証ししながら歩いた殉教者に思いを寄せつつ、この巡礼の道をたどってみたい。

巡礼のマナー

- 巡礼の場所は、公園やビルの敷地内、静かな住宅街、道路沿いなど、公共の場にあります。花束やゴミを置き去りにしたり、通行の妨げ、近隣への迷惑とならないよう、マナーを守って巡礼しましょう。
- グループで浅草教会・高輪教会を訪れる場合は、結婚式や葬儀のために自由に入れないことがありますので、事前に各教会へ連絡してください。

健脚向け 徒歩コース

- 歩行距離：約10km
- 歩行時間：3時間40分（滞在・休憩等除く）

浅草橋駅（JR総武線、都営浅草線）

▼徒歩10分

JR浅草橋駅の西口交差点を北上し、玉川国際学院のある交差点を左折、約150m先の右角に教会がある。教会に隣接するCSタワービルが目印。

浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑（カトリック浅草教会）

▼徒歩30分

カトリック浅草教会の西側にある清洲橋通りを南下し、神田川、靖国通りを越えて「東神田1丁目」交差点で右方向へ。「岩本町1丁目」交差点を左折し、小伝馬町駅方向へ3分ほどで右側に十思公園と大安楽寺が見える。

伝馬町牢屋敷跡（十思公園、大安楽寺）

▼徒歩2時間

「小伝馬町」交差点から江戸通りを日本橋方面へ。昭和通りを越えて「室町3丁目」交差点を左折し、ひたすら中央通り（第一京浜）を進む。三越前を過ぎて、日本橋、京橋、銀座、新橋、浜松町を通り、三田・田町駅付近から5分ほどで札の辻交差点に着く。

札の辻（交差点）

▼徒歩5分

品川駅に向かって右手にある高いビル（住友不動産三田ツインビル西館）の横の広場、奥の広い階段を上ると元和キリシタン遺跡碑がある。

元和キリシタン遺跡

▼徒歩45分

第一京浜を南下して泉岳寺を過ぎる。品川駅前ロータリーの交差点を右折し、ざくろ坂を10分ほど上ると左側にカトリック高輪教会の塔が見える。

江戸の殉教者顕彰碑（カトリック高輪教会）

▼徒歩10分

品川駅（JR、京浜急行）

乗り物利用コース

●時間に列車の待ち時間・乗換時間は含まれません

浅草橋駅（JR総武線、都営浅草線）

▼徒歩10分

浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑（カトリック浅草教会）

▼徒歩10分

清洲橋通りを南下、総武線のガードに沿って右へ進むと秋葉原駅。

秋葉原駅（東京メトロ日比谷線）

▼電車2分

小伝馬町駅（東京メトロ日比谷線）

▼徒歩3分

伝馬町牢屋敷跡（十思公園、大安楽寺）

▼徒歩3分

小伝馬町駅（東京メトロ日比谷線）

▼電車1分

（人形町駅で都営浅草線に乗り換え）

▼電車12分

三田駅（都営浅草線）

▼徒歩5分

札の辻（交差点）

▼徒歩5分

元和キリシタン遺跡

▼徒歩12分

田町駅（JR）

▼電車3分

品川駅（JR）

▼徒歩10分

江戸の殉教者顕彰碑（カトリック高輪教会）

▼徒歩10分

品川駅（JR、京浜急行）

✝ ペトロ岐部と187人殉教者　列福にあたっての祈り ✝

いつくしみ深い神よ、
あなたは、
聖フランシスコ・ザビエルの働きをとおして、
日本の地に福音の種を蒔いてくださいました。
その種は、信仰と愛を生きる共同体として大きく成長し、
厳しい迫害の中でも、多くの信徒・司祭が、
生と死をとおして主キリストをあかしししました。

江戸の殉教者　ヨハネ原主水、
ペトロ岐部神父をはじめ、
188人の列福にあたって祈ります。

わたしたちも信仰の先輩にならい、
神に対する信頼と人に対する愛をつらぬき、
現代社会の中で、
キリストの証人として生きることができますように。
また信教の自由を含むあらゆる面での人権が、
世界中どこにおいても尊重されますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

2008年　東京大司教区

【資料提供】
東北大学附属図書館「ゑ入 江戸大絵図」1684 年（表紙／p.16-17 地図）
カトリック高輪教会
上智大学キリシタン文庫

【主な参考文献】（50 音順）
白柳誠一『白柳大司教　東京教区百年を語る』女子パウロ会、1992
高木一雄『江戸キリシタンの殉教』聖母の騎士社、1989
H・チースリク著　高祖敏明監修『キリシタン時代の日本人司祭』教文館、2004
日本カトリック司教協議会 列聖列福特別委員会編
『ペトロ岐部と一八七殉教者』カトリック中央協議会、2007
山田野理夫『東京きりしたん巡礼』東京新聞出版局、1982
結城了悟『男四人、道一つ』日本二十六聖人記念館、2007

江戸キリシタン巡礼ガイド　ヨハネ原主水とペトロ岐部　ゆかりの地を訪ねる

2008年11月24日　初版発行
企画　東京教区巡礼パンフレット作成チーム
発行　カトリック東京大司教区
〒112-0014　東京都文京区関口3-16-15
TEL 03-3943-2301　FAX 03-3944-8511
http://tokyo.catholic.jp/
デザイン　有限会社 ステップ
制作　ドン・ボスコ社
印刷　ハクビ印刷
© カトリック東京大司教区　2008

非売品

キリシタン・殉教者のことをよく知るために

ペトロ岐部と187殉教者　歴史・巡礼ガイド
いのちをかけて愛を証ししたキリシタンたち

月刊『カトリック生活』の好評連載「一八八まるちれすの地を訪ねて」に、豊富な写真とより詳しい解説を加えた、巡礼ガイドの必携版。殉教者と巡礼地の記事のほか、殉教についてのカトリックの教え、時代背景、キリシタンの信仰、現代社会と殉教、列福の基礎知識など、充実の一冊！

B5判並製　128頁　オールカラー　定価1,050円
ドン・ボスコ社　http://www.donboscosha.com
TEL 03-3351-7041　FAX 03-3351-5430